

II 基本構想

1. これからの室蘭に求められるもの

住み続けたいと思えるまちはどのような姿で、目指すまちに近づくために、どのような取り組みを進めていくのか、目標を共有し、市民一人ひとりが同じ方向を見据えて歩みを進めることが大切です。

住み続けたいという思いの根底にあるのは、「室蘭が好き」という気持ちです。室蘭に住んでいる人が、笑顔で生き生きと活躍し、活気にあふれ希望に満ちて輝いていれば、人は魅了され、それがさらに人を呼び、室蘭を好きな人が増えていく、プラスの連鎖を生み出します。

この先の10年間、人口減少や少子高齢化が、地域経済や地域コミュニティに様々な影響を与え、まちに大きな変化をもたらすことも予想されます。

そうであっても、室蘭に住んでいる人が「室蘭が好き」という気持ちを持ち、希望を持って毎日を過ごし、充実した日々を送ることができれば、10年後、より魅力的なまちになっています。

今以上に魅力的なまちを目指すために、どのような姿勢でまちづくりに取り組むのか、これからの室蘭に求められる、まちづくりに取り組む基本姿勢を次に示します。

まちづくりに取り組む基本姿勢

(1) まちづくりの目標を共有し、一人ひとりがそれぞれできることに取り組む

この先、人口減少が進む中では、一人ひとりが担う役割もますます大きくなってきます。

住み続けたいと思えるまちをつかっていくには、市民・団体・企業・行政などまちに関わる人たちが互いに連携し、まちづくりに取り組むことが重要です。

そのためには、何を目指し、どう進んでいけばよいのか、まちづくりの目標を共有することが大切であり、目指す目標が共有できていれば、市民一人ひとりが、自分に何ができるのかを考え、そしてできることに取り組み、その小さな行動が「まちをもっと元気にしたい」という大きな輪に広がっていきます。

小さなことでも自分にできる役割があれば、そこから生きがい生まれ、このまちに住んでいるという実感となり、人はまちに留まります。そして、まちづくりに大切な新たな人のつながりが生まれます。

住み続けたいと思えるまちをつくるため、一人ひとりが主体的に行動し、まちづくりの輪を広げていく、その積み重ねが目指すまちに近づいていくものと考えます。

(2) まちの資源を磨きあげ将来に向けて増やしていく

活気にあふれ、人のにぎわいが絶えないまちになるためには、室蘭市外からも人を呼び込み、ヒトやモノの新たな流れをつくっていくことが必要です。

外から選ばれるまちになるためには、市内にある資源を磨き上げ魅力を高め、新たな価値を見いだすこと、そしてその価値を積極的に発信していくことが重要です。

室蘭には、港から始まったものづくりの歴史や技術の集積、豊かな自然を身近に感じられる環境や暮らしやすい気候、工場群と自然が織りなす美しい景観など多くの資源がありますが、住んでいる私たちが日常何気なく目にするもの、触れるものにこそ、新たな価値が生まれる可能性が秘められています。

自分たちが日々過ごしている環境の良さに気づき、そこから新たな価値を見だし、一人ひとりがその価値を伝えていくことで、外から人が訪れるまちになり、やがては働く場の創出や、定住につながる好循環が生まれます。

10年後に向け、少しずつ価値ある資源を増やし、伝えていくことがまちへの愛着、住み続けたいと思えるまちにつながることから、未来を担う子どもたちに向け、室蘭の大切な資源を育てていきます。

(3) 持続可能なまちづくりを進める

これまでの室蘭市のまちづくりは、過去の人口増加等に対応するため、公共施設やインフラの整備などを行い、白鳥大橋が開通して以降は、橋を生かしたまちづくりによって、サークル都市としての確かな基盤をつくり、まもなく迎える開港150年・市制施行100年へとつながる歩みを今日まで進めてきました。

今後は人口減少社会を見据え、これまで整備した公共インフラなど社会資本をサークル都市の利点も生かして、人口規模に合わせて整えながら、適切な管理により、次の世代にしっかりと引き継いでいくことが必要であり、それを支えるための行財政基盤の確立が重要となってきます。

また、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指すSDGs（持続可能な開発目標）の視点を踏まえ、あらゆる人が健康で生涯にわたって学び、生きがいや働きがいを持って活躍できる社会の形成や、環境に目を向けた新エネルギー産業の創出、AIやIoT等の先端技術を取り入れ、産業の発展や暮らしやすさの向上につなげるなど、時代の流れを捉え、次の100年に向かって挑戦し続けることが重要です。

人口規模に合わせたまちづくりと未来への挑戦により、持続可能なまちづくりを目指します。

以上を踏まえ、総合計画で目指すまちの将来像を定め、その将来像に向かってこれからのまちづくりを進めていきます。

2. 目指す将来像

室蘭が好き。みんなで創る、住み続けたいまち

～ まち・ひと・みなと つながりが未来を創る ～



将来像に込めた思い

住み続けたいまちを目指すために必要なことは、「室蘭が好き」という人が今以上に増えることです。

住むまちの良さに気づき、価値を伝え、「まちのために何かしたい」と多くの人が行動するまちは、活気にあふれ、より魅力的に映ります。

市民・団体・企業・行政などがそれぞれできることに取り組み、みんなで支え合いながらまちづくりを進める姿は人に希望を与え、ふるさとへの愛着となって、将来を担う子どもたちの心にも残ります。

時代が変化しても、ふるさとを思う気持ちは普遍的なものであり、将来にわたって住み続けたいまちを目指すため、天然の良港に恵まれ、ものづくりとともに発展してきた産業や文化、豊かな自然など、これまで培ってきたまちの財産を、人が持つ創造性によって、新たな視点でつなげていくことでさらに価値を高め、未来を創っていく、そんなまちを目指します。

3. 将来像の実現に向けたまちづくりの方向性

まちの将来像を実現するために、7つの方向性に基づきまちづくりを進めます。

1 働く人が集まるまちづくり

これまで築いてきた技術の集積を強みに、長期的・世界的な視野を持って、成長産業への進出や新たな投資を呼び込み、本市の産業の発展を企業とともに目指します。

本市の特性を生かし、企業や大学をはじめとする教育機関と連携し、研究開発や企業誘致等、魅力的な雇用の場の創出や学生が定着するための取り組みを進めます。

全ての人が活躍できる社会に向けて、多様な働き方ができるまちを目指します。

2 若い人や子育て世代が住みたくなるまちづくり

若い世代が希望を持って住み続けられるよう、地元定着につながる取り組みを進めます。

子育て世代が安心して住み続けられるまちを目指し、子育て環境の充実に向けた取り組みを行い、みんなで子育てを応援するまちを目指します。

ふるさとへの愛着を育むため、地域や企業と連携し、子どもの頃にまちの産業、歴史に触れる機会を創出し、まちを知る取り組みを推進します。

3 健康で活躍できるまちづくり

高齢化率が全国・全道平均を上回る中において、健康への意識を高め、誰もが住み慣れた地域で元気に暮らせるまちを目指します。

年齢や性別等に関わらず様々な人が互いを尊重し、支え合い共生できるまちを目指します。

スポーツや文化・市民活動等を通じ、趣味やスキルを発揮し、生きがいを持って、地域で活躍する人を増やします。

4 ヒト・モノの交流が生まれるまちづくり

自然や文化、歴史資源なども活用した観光振興により本市の魅力を発信して、交流人口や関係人口の創出・拡大に向けた取り組みを推進します。

環境・エネルギー分野の視点を踏まえ、企業誘致や、物流拠点として港の発展を目指すほか、大型客船の誘致に取り組み、客船寄港時の人の流れをにぎわい創出につなげ、まちの活性化に取り組みます。

5 コンパクトで住みやすいまちづくり

都市機能の集約や、空き地、空家の活用による住み替えの促進等、魅力あるコンパクトで持続可能なまちづくりを進めます。

コンパクトなまちづくりに合わせ、地域特性を踏まえた公共交通網を形成し、利用促進を図り、持続可能な公共交通網の維持や確保に取り組みます。

6 安全安心で環境にやさしいまちづくり

今後も起こり得る災害に備え、まちの強靱化を推進し、地域の実情を踏まえた防災力の向上や連携強化を進めるとともに、消防・救急体制の維持強化や交通安全対策等、関係機関と連携した安全なまちづくりを進めます。

自然環境の保全やごみの減量・資源化、エネルギーの有効利用など、地球環境に配慮した持続可能で環境負荷の少ないまちづくりを進めます。

7 持続可能な行政運営

人口規模に合った行政運営を行うため、持続可能な財産基盤を確立する取り組みを進めるとともに、公共施設の再編など社会インフラの適切な維持管理を行います。

将来にわたり、この地域で暮らすことができるよう、西胆振地域としての魅力を高め、様々な分野について連携した取り組みを推進します。

